

林業普及現地情報

1 タイトル

搬出間伐における現地指導について

2 内容

玉名管内の私有林の林種割合は、人工林が約40%、天然林が約50%、竹林が約10%で、県平均と比較すれば天然林、竹林の割合が高いことが特徴です。

玉名森林組合においては、事業規模が小さい現場が散在している状況で森林整備を行っていたため、高性能林業機械の導入が遅れており、搬出間伐の生産性が低く、森林所有者の収入も少なくなることから、切捨て間伐が主に行われていました。

和水地区においては、平成27年度に集約化促進協議会が設立され、徐々に集約化施業団地が整いつつあったことから、森林組合に対して、高性能林業機械の導入による生産性の向上と、荒尾市の木質バイオマス発電所への林地残材の出材による収益性の向上を提案してきました。

今回、集約化施業団地において、搬出間伐を実施することとなり、集材・運搬において試験的にフォワーダをリースで導入しているとの情報を聞き、現地の作業状況の確認を行いました。

現地確認時は、既に伐倒・玉切りは完了し、作業路沿いに集積した材をフォワーダで土場まで運搬する作業を行っていました。担当した森林組合職員から、フォワーダについて感想を聞くと、「人工数を削減できた」「作業員のモチベーションが上がった」など、生産性や、仕事環境が大きく改善されたようでした。

なお、林内には、切り捨ての放置残材が多く見受けられ、これは、作業路沿いに伐倒し、グラップルにより集材できない材について、ウインチにより引き上げると時間がかかりすぎるため、放置しているとのことでしたが、作業路沿いにも残材があり、フォワーダのリース期間も残っていたことから、丸太の搬出後、残材を集積して木質バイオマス発電所へ出材することを再度提案し、後日、残材の集積が行われていました。

今回のフォワーダの導入で、森林組合が高性能林業機械を取り入れた作業システムに自信を持てるようになり、次の現場でも、フォワーダが導入されるようになりました。今後は、見積書、精算内容についても助言を行い、より収益性の高い搬出間伐が進められるよう、普及活動を進めていきたいと思っております。





- 3 種類 ①普及情報 ②普及活動
- 4 テーマ区分 ① 県産木材の利用促進
 ② 林業の成長産業化のための森林整備の推進
 ③ 山村地域の活性化
- 5 HP掲載 可 不可
- 6 共用キャビネット掲載 可 不可

【連絡先】

熊本県県北広域本部玉名地域振興局農林部林務課 松崎
〒865-0016
TEL:0968-74-2138 FAX:0968-74-2840

